

復興支援フォーラムニュース No.9

(URL <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫(tkonno67@gmail.com) 中井勝己(024-548-8313)>

=====
(2012/03/08 第7回「ふくしま復興支援フォーラム」)

「食品の放射線物質の暫定規制値の見直しについて」

佐藤 理 (コープふくしま理事・福島大学)

1. はじめに

報告の背景—震災以降のコープふくしまの取り組みの一端を紹介する。

2. 陰膳調査について

陰膳法は、実際に被験者が摂取した食事と同じものを科学的分析し、摂取栄養素量を推定するものである。通常は各家族でもう1人前多く食事をつくってもらい、それを収集する。ホモジェナイズ後凍結、あるいは凍結乾燥を行い、検体数がそろった時点で分析する。集団の平均栄養素摂取状況を把握するのに用いられるが、多くの手間と経費がかかる。また、このような調査に協力してもらう際には、普段の食事とは異なるものに変更されやすいことに留意すべきである。食べた食品の科学分析を実際に行うので、食物成分表のもっている誤差は解消できる。

「栄養調査関連用語集」より http://www.nih.go.jp/eiken/nns/yougo/k_01.html

3. 「第122回放射線審議会総会」での報告

—現存被ばく状態にある当事者からの意見—

(1)それはリークで始まった—1月20日19時NHKニュース

(2)食品由来の内部被ばくは低いレベルに—小宮山厚労大臣諮問文

(3)新基準により福島の農地が作付け制限をうけても日本の食糧供給に影響ない

4. おわりに—健康教育者の反省

考えてみなければならない課題が浮上している。放射能と健康影響に関する認識と健康観の問題である。広島・長崎の被爆者に対して向けられた偏見・差別が、福島に対してもおきている。女子中学生をして「私たちはもう子どもを産めないからだなの」と言わしめる事態が象徴的だ。低線量被ばく下にある福島県民にどう向き合うのか、健康の科学と観(健康それ自体)の両面から探る課題である。

＜第6回復興支援フォーラム 2012.2.25 参加者ご意見等＞

- ★目先のことも大事だが、各自治体は強い交渉(加害者に)を。(Y.K)
- ★放射線に関する考え方について、高線量が人体に悪影響を及ぼすことは明確だが、低線量の人体影響については専門家の意見もまちまちであり、まして、個人の感じ方には大きな差異があります。高線量の地域は可能な限り、除染するのが復興への一歩だと思います。但し、山林と超高線量地域は、現実的に除染困難と思います。／住宅、コミュニティの復活についても、個々人で色々な考え方があると思います。自宅に戻りたい人、元いた地域の近くに自宅を新設して住みたい人、復興住宅に住みたい人、そして故郷に戻ることをあきらめる人もいると思います。復興については、これらのニーズに応えることのできるよう、様々なメニューを用意すべきです。そのためには、住民の希望を行政に伝える機会やルートを設定すべきだと思います。(K.S)
- ★小澤さん、佐々木さん、他の浪江の方々のお話をお聞きし、やはり、「できること」、「できないこと」を早急に見極め、けじめをつけることが重要だと思いました。／「理想」も大事ですが、人間は「時間」の流れの中で生きているという現実を、もっともっと認識するべきだと思います。／レジュメには書かれていない、小澤さんの口頭で話された本音の部分が重要だと感じます。住民が、それぞれ本音を、直接訴えることが出来る場を設けることは出来ないのでしょうか。政治家や行政、研究者、専門職よりも、一般の住民の方が、より客観的に現実を直視しているのではないかと思います。(A.K)
- ★避難を余儀なくされている浪江町の方から、直接素直な気持ちを聞いて、改めて復興へのロードマップがほとんど進んでいないと感じた。放射能に関する技術的知識・知見があいまいなままである事が、国も行政も確実な一歩を踏み出せないでいる様に思える。ある程度、「決断」をもって進めないと、復興の現実はない。(A.O)
- ★フォーラムで提出された意見等を、具体的に復興計画に反映させる仕組みをつくる必要がある。単なるガス抜き場ではない。(C.H)
- ★小澤様の具体的なお話をお聞きでき、少し安心しました、今後少しでも実行できることを期待しております。(D.H)
- ★今日初めて仮設に避難している方々の、生の声を聞くことができ、ご苦労を実感共有することができた。浪江町は始め被災地(原発)の復興・再生は町民ばかりではなく、福島県民が共有しなければならぬと思う。(R.N)
- ★小澤氏の心のこもった提言が、町政の方向性に役立てられることを祈念いたします。避難された方々の心痛やる方なしの現状を拝聴いたしました。(K.H)
- ★浪江町民として、もっともっと復興について話し合いたいものです。誰か何かやってくれるのではないかな・・・と人任せにしている自分があるが、自分の事ですので、考えなくてはなりません。(Y.K)
- ★昨年、大熊町から避難されているの方々のお話をうかがう機会がありました。今回、浪江町から避難されているお二人の話をうかがって、一層強く思うのは、もっともっと、福島からの発信を強くすすめる必要があるということです。多岐にわたる視点を大切にしながら、もっと全国に発信し続けることが、大切だと思いました。(K.F)
- ★仮設住宅の切実な話が聴けて、大変良かった。(T.T)

~~~~~

【第8回 ふくしま復興支援フォーラム】3月22日(木) 18時30分～(AOZ大活動室1)

中井勝己氏 「福島復興再生特別措置法案について」

【第9回 ふくしま復興支援フォーラム】4月6日(金) 18時30分～(AOZ視聴覚室)

境野健児氏 「原発・放射線災害と子ども・学校・地域」

~~~~~